

加蘇地区

人口	男	850人	女	853人	計	1,703人	世帯数	634世帯
----	---	------	---	------	---	--------	-----	-------

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

《事業概要【分野】と主な支出内容》

① 防犯カメラ設置事業【防犯】

防犯カメラを設置し、児童生徒の登下校時の安全確保や不法投棄を防ぎ、地区内の安全を確保する。

防犯カメラ設置(6基)

② 加蘇地区観光 PR 事業【観光】

- ・石裂山登山道入り口のトイレを水洗化し、地域の観光拠点の一つとして活性化を図る。
- ・スタンプラリーイベントの開催、観光資源・イベント情報等を積極的に発信し、交流人口増を図る。

トイレ整備…トイレ水洗化、浄化槽清掃、定期的な清掃消耗品補充、周辺の除草
観光 PR…パンフレット作成、イベントの企画実施、地域の観光情報の発信

《収支決算》

【収入(円)】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	—	7,395,085	519,235	168,618	119,112	8,202,050
その他補助金	—	0	0	0	0	0
自己資金	—	0	106,620	0	0	106,620
計	—	7,395,085	679,855	168,618	119,112	8,362,670

【支出(円)】

事業 No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	—	3,871,800	54,927	51,966	53,828	4,032,521
事業②	—	3,523,285	624,928	116,652	65,284	4,330,149
計	—	7,395,085	679,855	168,618	119,112	8,362,670

《事業への取り組みを振り返って》

加蘇地区ではコミュニティ推進協議会のメンバーが中心となり「地域の夢実現事業」の活用を検討するアイデア会議を開催しました。アイデア会議と併せて地区住民へアンケートを実施し地域課題の洗い出しを行いました。その中から以下2つの事業を決定し取り組みました。

① 防犯カメラ設置事業【防犯】

加蘇地区ではこれまでも地区住民が児童生徒の登下校時の見守り、防犯パトロール活動等を実施してきました。しかし人口減少、過疎化により「人の目」が減少し、また近年山間部への不法投棄が増加するなど地域の安全を脅かす状況が生まれていました。

設置場所の選定、事業者へのヒアリング、運用規定策定を経て、地区内の主要な交差点 6 か所に防犯カメラを設置しました。設置後は加蘇地区防犯協会が「防犯カメラ稼働中」立て看板を作成し、カメラ設置の効果を高めたり、カメラ周辺の除草を行う等維持管理に努めています。

この事業への取り組みは、警察の捜査へデータ提供等、地区内の犯罪発生抑止に一定の効果があったと思われる、今後はカメラの保守点検、電気料等を加蘇地区防犯協会で確保し維持管理していく予定です。

② 加蘇地区観光 PR 事業【観光】

・加蘇山神社トイレ水洗化、維持管理

石裂山登山や神社参拝で当地を訪れる観光客が快適にトイレを利用できるよう水洗化を実施しました。併せてどのようにトイレの快適さを維持するか検討をしました。

現在、加蘇地区ふるさとづくり協議会のメンバーが定期的に清掃、消耗品の補充、マナーポスターの掲示、トイレ周辺の除草等を行っています。またトイレと隣接し観光案内、周辺地図の看板が設置されており石裂山観光の拠点として今後も維持管理を継続していきます。



加蘇山神社トイレ(外観)



加蘇山神社トイレ(外観)

・観光PR

当初は交流人口増を目指し、パンフレット作成、イベント開催を計画していましたが、コロナウィルス感染症拡大のため事業の中止、大幅な変更を余儀なくされました。事業の実施団体である加蘇地区ふるさとづくり協議会は、事業の中止期間を活動のブラッシュアップ期間ととらえアフターコロナを見据えた観光PR事業を模索することになりました。



「ふるさと発見グリーン・ツーリズム入門塾」に参加
令和2年10月27日



鹿沼南高校のサツマイモの収穫実習に協力
令和3年10月21日

まず栃木県の「農村ファン活躍支援モデル事業」のモデル地区の指定をうけ NPO トチギ環境未来基地の支援をいただきながら、ワークショップ、課題の洗い出し等を行いました。会員から情報発信力の弱さに対する指摘があり、令和3年度には Facebook 活用講座を開催しました。同時に下久我地内の耕作放棄地を他地区からのボランティアを受け入れながら再生する活動を開始しました。

また鹿沼南高校の「ふるさと発見グリーン・ツーリズム入門塾」に協力し、会員も参加してグリーン・ツーリズムを学び、ワークショップやイベントの企画実習を行いました。南高校との交流は令和3年度も続き下久我地内でサツマイモの定植、収穫実習を実施しています。生徒たちが生き生きとした表情で農作業をしたり、学生やボランティアと一緒に汗を流し耕作放棄地の草刈りを手伝う姿は、会員にも新鮮な驚きを与えたようです。



下久我地内の耕作放棄地の再生（令和3年度）

このような活動を通し、会員の間では地区の豊かな自然の中での里山保全活動や農作業体験に価値を見出し、都市住民との交流や地域活性化に繋げることができないか方策を探る動きが始まっています。当地区はいわゆる目玉となる観光資源が乏しく、観光スポットを周遊したり、グルメを提供する一般的な観光にはあまり適していません。今後は単に一過性のイベントを企画するのではなく、参加者や関係者とのつながりを重視し、当地区のファンになってもらい継続的な交流を生み出す活動を展開したいと考えています。



とちぎ農村QUEST動画作成

令和3年6月6日



干し芋づくりイベント

令和3年12月19日

令和4年度以降は、里山保全活動によって蘇った耕作放棄地(仮称 カソトモの森)を交流スペースとして整備し活用していく予定です。子どもたちが森で楽しく遊べるプログラムの開発、育てた農作物を使ったイベントの企画、現在建設中の南摩ダムや周辺環境を観光資源として当地の活性化に活かしていけないか等、様々なアイデアが検討されています。またSNSの活用、栃木県が運営する「農村」と「人」をマッチングするサイト「TUNAGU」への参画等で地域の魅力や協議会の活動を積極的に発信していきます。

コロナ禍により当初の計画通りに事業が実施できませんでしたが、「地域の夢実現事業」で観光PR事業に取り組んだ結果、住民が加蘇地区の魅力や可能性を再発見することができました。また将来地域づくりの担い手となる会員のモチベーションを保ち、協議会の質を向上させることができました。今後は里山保全活動や農作業体験をグリーン・ツーリズムとして発信し、当初の目的である交流人口の増加に繋げていきたいと考えています。